

1. 研修機関情報

(1) 法人情報

①法人格・法人名称・住所等

株式会社グレート 石川県金沢市本町 1-5-1 リファール 1F

②代表者名、研修事業担当理事・取締役名

代表取締役 川島康将

(2) 研修機関情報

①事業所名称・住所等

株式会社グレート富山支店 富山県富山市本町 3-25 富山本町ビル 3F

②理念

介護サービスを実践するために必要な基本的な知識・技術を習得するとともに、職業倫理・態度を養成し、さらなるキャリア向上を目指す十分な意欲向上心を持って、福祉施設・病院等での介護業務および訪問介護サービス業務、その他の高齢者・障害者福祉サービスに関する業務で活躍しうる人材の養成を目的とする。

③研修施設、設備

名 称	自治労とやま会館 会議室 306 号室	
所 在 地	富山市下新町 8-16	
面 積	70 m ²	
収 容 可 能 人 数	30 名	
主要な使用 備 品 一 覧	福祉用具等の名称	数量
	介護用ベッドおよび関連器具	2 台
	回転式介助バー	2 台
	寝具・シーツ等一式	2 組
	防水シーツ	2 枚
	波型クッション	2 枚
	車椅子	2 台
	ポータブルトイレ	2 台
	尿器	2 個
	おまる（差し込み便器）	2 個
	杖	2 本
	水銀血圧計	1 台
	デジタル血圧計	2 台
	体温計	2 個
	食事介助用食器・スプーン・コップ	2 セット
	食事用エプロン	2 枚
	整容・清潔保持に使用の用具 (洗面器・くし・ドライヤー・爪切り・	2 セット

口腔ケアスポンジ・うがいキャッチ等)	
シャワーチェア・浴用イス	各 1 台
すべりどめマット	1 枚
ブルーシート	2 枚
たらい	2 個
バケツ (大・中・小)	各 2 個
手桶	2 個
バスタオル・タオル・ハンドタオル等	各 2～6 枚
パジャマ・浴衣	2 組
シャワーボトル	2 個
オムツ (テープ式・パンツ式)	人数分
アイマスク	10 枚
手首・足首錘	4 個

2. 研修事業情報

(1) 研修の概要

①学則

学 則

1. 目的

介護サービスを実践するために必要な基本的な知識・技術を習得するとともに、職業倫理・態度を養成し、さらなるキャリア向上を目指す十分な意欲向上心を持って、福祉施設・病院等での介護業務および訪問介護サービス業務、その他の高齢者・障害者福祉サービスに関する業務で活躍しうる人材の育成を目的とする。

2. 実施主体

- (1) 所在地：石川県金沢市本町 1-5-1 リファール 1F
(TEL 番号：076-262-9010 FAX 番号：076-263-7227)
- (2) 法人名：株式会社グレート
- (3) 代表者名：代表取締役 川島 康将

3. 研修事業の名称

「介護職員初任者研修（事業内訓練）2022.4 月コース」とする。

4. 実施場所

株式会社グレート 富山教室
所在地：自治労とやま会館 会議室 306 号室（富山県富山市下新町 8-16）

5. 研修機関

2022 年 4 月 19 日～2022 年 5 月 27 日

6. カリキュラムおよび担当講師名

別紙のとおり実施する。

7. 受講対象者および定員

(1) 原則として以下の要件を満たす方とする。

- ①介護職を目指している方や経験の浅い介護職従事者、または介護に強い関心・意欲を持っている方
- ②当社と雇用契約を締結し、介護の知識・技能を習得することで職業能力の開発及び向上が見込める方
- ③訓練の規約に従い受講が可能の方
- ④無理なく通学可能な方

(2) 定員は15名とする。

8. 研修参加費用

受講料：事業内訓練としての開講につき、受講料・テキスト費は無料とする。

9. 受講手続き

受講申込書に必要事項を記入し、弊社富山支店にて面談のうえ提出するものとする。
その際、規約および詳細についての説明を行う。

10. 本人確認の方法

受講者に対し、受講申込受付時または初回の講義時に下記の方法により本人確認を行う。
<運転免許証・パスポート・学生証・国家資格等の免許証または登録証・健康保険証・年金手帳・戸籍謄本・戸籍抄本・住民票・住民基本台帳カード・在留カード 等のいずれかの提示>

11. 補講の実施方法および費用

通学課程（講義・演習）の一部を欠席した場合もしくは通信課程を含む知識・技術の習得が十分でないと認められる場合は、該当者のみを対象とした個別の講義・演習により補講を行う。なお、補講の費用は無料とする。

また、欠席した場合について、弊社がほぼ同時期に同一研修内容で別日程のコースを開講している場合は、該当科目のみ別日程のコースで振替受講できるものとする。その場合も、補講費用は無料とする。ただし、振替受講により、一部科目の受講日や修了テスト実施日を変更する場合がある。

12. 研修修了の認定方法

次の条件をいずれも満たした者を修了者として認定する。

- ①通信課程における全ての課題を提出し、添削指導を受けた者
- ②通学課程における全ての科目・時間を受講した者
(※欠席等に関しては、11. に記載の要件を満たした者)
- ③次の評価基準を満たした者
 - ・ 修了評価テスト（筆記）において、概ね70%以上得点した者
 - ・ 「こころとからだのしくみと生活支援技術」の基礎知識に関する小テスト（筆記形式）において、概ね70%以上の習得度を満たした者

- ・ 介護技術演習内容の個別評価において、概ね70%以上の習得度を満たした者
 - ・ 受講態度および意欲が、修了に値すると認められる者
- ④原則として、訓練の修了要件を満たした者

※概ね8か月を上限とする

②研修日程・時間数・講師名

日時	研修時間数	科目（細目）	講師職氏名	場所
4月19日 9:50～13:00	3時間	1－（1） 多様なサービスの理解	辻田 順子	富山教室 （自治労 とやま会館 306号室）
4月19日 13:50～17:00	3時間	1－（2） 介護職の仕事内容や働く現場の理解	辻田 順子	
4月20日 9:20～14:50	4.5時間	2－（1） 人権と尊厳を支える介護	和田 美登利	
4月20日 15:00～16:30	1.5時間	2－（2） 自立に向けた介護	和田 美登利	
4月21日 9:20～10:50	1.5時間	3－（1） 介護職の役割、専門性と多職種との連携	伊藤 里美	
4月21日 11:00～11:30	0.5時間	3－（2） 介護職の職業倫理	伊藤 里美	
4月21日 11:30～12:00	0.5時間	3－（3） 介護における安全の確保とリスクマネジメント	伊藤 里美	
4月21日 12:00～12:30	0.5時間	3－（4） 介護職の安全	伊藤 里美	
4月21日 13:20～16:30	3時間	4－（2） 医療との連携とリハビリテーション	伊藤 里美	
4月22日 9:20～10:50	1.5時間	5－（1） 介護におけるコミュニケーション	千 恵子	
4月22日 11:00～12:30	1.5時間	5－（2） 介護におけるチームのコミュニケーション	千 恵子	
4月22日 13:20～14:50	1.5時間	4－（1） 介護保険制度	千 恵子	
4月22日 15:00～16:30	1.5時間	4－（3） 障害者福祉制度およびその他制度	千 恵子	
4月26日 9:20～10:20	1時間	7－（1） 認知症を取り巻く状況	山本 朋子	
4月26日 10:20～12:30	1時間	7－（2） 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	山本 朋子	
4月26日 13:20～15:30	2時間	7－（3） 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	山本 朋子	
4月26日 15:30～16:30	1時間	7－（4） 家族への支援	山本 朋子	
4月28日 9:20～10:50	1.5時間	6－（1） 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活	伊藤 里美	

日時	研修時間数	科目（細目）	講師職氏名	場所
4月28日 11:00~12:30	1.5時間	6-（2） 高齢者と健康	伊藤 里美	富山教室 （自治労 とやま会館 306号室）
4月28日 13:20~14:20	1時間	8-（1） 障害の基礎的理解	伊藤 里美	
4月28日 14:20~15:30	1時間	8-（2） 障害の医学的側面、生活障害、心理・ 行動の特徴、かかわり支援の基礎的知識	伊藤 里美	
4月28日 15:30~16:30	1時間	8-（3） 家族の心理、かかわり支援の基礎的知識	伊藤 里美	
5月6日 9:20~12:30	3時間	9-（1） 介護の基本的な考え方	山本 順子	
5月6日 13:20~16:30	3時間	9-（2） 介護に関するこころのしくみの基礎的 理解	山本 順子	
5月10日 9:20~12:30	3時間	9-（3） 介護に関するからだのしくみの基礎的 理解	辻田 順子	
5月10日 13:20~16:30	3時間	9-（4） 生活と家事	辻田 順子	
5月11日 9:20~16:30	6時間	9-（5） 快適な居住環境整備と介護	千 恵子	
5月12日 9:20~16:30	6時間	9-（6） 整容に関連したこころとからだのしく みと自立に向けた介護	山本 朋子	
5月13日 9:20~16:30	6時間	9-（7） 移動・移乗に関連したこころとからだ のしくみと自立に向けた介護	伊藤 里美	
5月17日 9:20~11:30	2時間	9-（7） 移動・移乗に関連したこころとからだ のしくみと自立に向けた介護	辻田 順子	
5月17日 11:30~16:30	4時間	9-（12） 死にゆく人に関連したこころとからだ のしくみと終末期介護	辻田 順子	
5月18日 9:20~16:30	6時間	9-（8） 食事に関連したこころとからだのしく みと自立に向けた介護	和田 美登利	
5月19日 9:20~16:30	6時間	9-（9） 入浴、清潔保持に関連したこころと からだのしくみと自立に向けた介護	山本 朋子	
5月20日 9:20~16:30	6時間	9-（10） 排泄に関連したこころとからだのしく みと自立に向けた介護	山本 朋子	
5月24日 9:20~16:30	6時間	9-（11） 睡眠に関連したこころとからだのしく みと自立に向けた介護	伊藤 里美	
5月25日 9:20~12:30	3時間	9-（13） 介護過程の基礎的理解	伊藤 里美	

日時	研修時間数	科目（細目）	講師職氏名	場所
5月25日 13:20～16:30	3時間	9－（14） 総合生活支援技術演習	伊藤 里美	富山教室 （自治労 とやま会館 306号室）
5月26日 9:20～16:30	6時間	9－（14） 総合生活支援技術演習	辻田 順子	
5月27日 9:20～11:30	2時間	10－（1） 振り返り	山本 順子	
5月27日 11:30～14:20	2時間	10－（2） 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	山本 順子	
5月27日 11:30～15:30	3時間	修了テスト		

③指導者数

6名

(2) 課程編成責任者

太田真理子

(3) 研修カリキュラム

1. 職務の理解（通学：6時間）	
<p><ねらい> 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、そのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。</p>	
科目（細目）	具体的内容
(1) 多様なサービスの理解 (3時間) <通学：3時間>	介護保険サービス（居宅、施設）、介護保険制度外サービス
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解 (3時間) <通学：3時間>	居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容、居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ（視聴覚教材の活用等）、ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携

2. 介護における尊厳の保持・自立支援（計9時間 通学：6時間 通信：3時間）	
<p><ねらい> 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。 <評価ポイント> ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。</p>	
科目（細目）	具体的内容
(1) 人権と尊厳を支える介護 (6時間)	(1) 人権と尊厳の保持：個人としての尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護

<p>〈通学：4.5時間 通信：1.5時間〉</p>	<p>(2) ICF：介護の分野におけるICF</p> <p>(3) QOL：QOLの考え方、生活の質</p> <p>(4) ノーマライゼーション：ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5) 虐待防止・身体拘束禁止：身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護支援</p> <p>(6) 個人の権利を守る制度の概要：個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業</p>
<p>(2) 自立に向けた介護 (3時間) 〈通学：1.5時間 通信：1.5時間〉</p>	<p>(1) 自立支援：自立・自律支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性／個別ケア、重度化防止</p> <p>(2) 介護予防：介護予防の考え方</p>

3. 介護の基本 (計6時間 通学：3時間 通信：3時間)

- <ねらい>
- ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
 - ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。
- <評価ポイント>
- ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
 - ・介護職としての共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
 - ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
 - ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
 - ・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

科目 (細目)	具体的内容
<p>(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携 (3時間) 〈通学：1.5時間 通信：1.5時間〉</p>	<p>(1) 介護環境の特徴の理解：訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性</p> <p>(2) 介護の専門性：重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事務所内のチーム、多職種から成るチーム</p> <p>(3) 介護に関わる職種：異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担</p>
<p>(2) 介護職の職業倫理 (1時間) 〈通学：0.5時間 通信：0.5時間〉</p>	<p>職業倫理：専門職の倫理の意義、介護の倫理 (介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重</p>
<p>(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1時間) 〈通学：0.5時間 通信：0.5時間〉</p>	<p>(1) 介護における安全の確保：事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザード</p> <p>(2) 事故予防、安全対策：リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告 (家族への報告、市町村への報告等)、情報の共有</p> <p>(3) 感染対策：感染源の原因と経路 (感染源の排除、感染経路の遮断)、「感染」に対する正しい知識</p>
<p>(4) 介護職の安全 (1時間) 〈通学：0.5時間 通信：0.5時間〉</p>	<p>介護職の心身の健康管理：介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策</p>

4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（計 9 時間 通学：6 時間 通信：3 時間）	
<p><ねらい> 介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p> <p><評価ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。 	
科目（細目）	具体的内容
(1) 介護保険制度 (3 時間) 〈通学：1.5 時間 通信：1.5 時間〉	(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向：ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域支援センターの設置、地域包括ケアシステム推進 (2) 仕組みの基礎的理解：保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割：財政負担、指定サービス事業者の指定
(2) 医療との連携と リハビリテーション (3 時間) 〈通学：3 時間〉	医行為と介護、訪問介護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念
(2) 障害者福祉制度および その他制度 (3 時間) 〈通学：1.5 時間 通信：1.5 時間〉	(1) 障害者福祉制度の理念：障害の概念、ICF（国際生活機能分類） (2) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解：介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要：個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業

5. 介護におけるコミュニケーション技術（計 6 時間 通学：3 時間 通信：3 時間）	
<p><ねらい> 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門的に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。</p> <p><評価ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> 共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。 言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。 	
科目（細目）	具体的内容
(1) 介護における コミュニケーション (3 時間) 〈通学：1.5 時間 通信：1.5 時間〉	(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割：相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション：言語的コミュニケーションの特徴、非言語的コミュニケ

	<p>ーションの特徴</p> <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際：利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際：視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術</p>
<p>(2) 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>(3時間)</p> <p>〈通学：1.5時間 通信：1.5時間〉</p>	<p>(1) 記録における情報の共有化：介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、ヒヤリハット報告書、5W1H</p> <p>(2) 報告：報告の留意点、相談の留意点</p> <p>(3) コミュニケーションを促す環境：介護、情報の共有の場、役割の認識の場（利用者と頻回の接触する介護者に求められる観察眼）、ケアカンファレンスの重要性</p>

<p>6. 老化の理解（計6時間 通学：3時間 通信：3時間）</p>	
<p><ねらい></p> <p>加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解する事の重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。</p> <p><評価ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。 	
<p>科目（細目）</p>	<p>具体的内容</p>
<p>(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常</p> <p>(3時間)</p> <p>〈通学：1.5時間 通信：1.5時間〉</p>	<p>(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴：防衛反応（反射）の変化、喪失体験</p> <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響：身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響</p>
<p>(2) 高齢者と健康</p> <p>(3時間)</p> <p>〈通学：1.5時間 通信：1.5時間〉</p>	<p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点：骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛</p> <p>(2) 高齢者の多い病気とその日常生活上の留意点：循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、循環器障害の危険因子と対策、老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが前面にでる、うつ病性仮性認知症）、誤嚥性肺炎、病状の小さな変化に気付く視点、高齢者は感染症にかかりやすい</p>

<p>7. 認知症の理解（計6時間 通学：6時間）</p>	
<p><ねらい></p> <p>介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解している。</p> <p><評価ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。 ・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙 	

<p>できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方および介護の原則について列挙できる。また、同様に若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。 ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。 	
科目（細目）	具体的内容
<p>（１）認知症を取り巻く状況 （１時間） 〈通学：１時間〉</p>	<p>認知症ケアの理念：パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点（できることに着目する）</p>
<p>（２）医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 （２時間） 〈通学：２時間〉</p>	<p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理：認知症の定義、物忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、治療、薬物療法、認知症に使用される薬</p>
<p>（３）認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 （２時間） 〈通学：２時間〉</p>	<p>（１）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴：認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（B P S D）、不適切なケア、生活環境で改善</p> <p>（２）認知症の利用者への対応：本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる、失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考える事、身体を通したコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行にあわせたケア</p>
<p>（４）家族への支援 （１時間） 〈通学：１時間〉</p>	<p>認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）</p>

<p>8. 障害の理解（計 3 時間 通学：3 時間）</p>	
<p><ねらい> 障害の理解と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。</p> <p><評価ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念と I C F について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・障害の受容プロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。 	
科目（細目）	具体的内容
<p>（１）障害の基礎的理解 （１時間） 〈通学：１時間〉</p>	<p>（１）障害の概念と I C F：I C F の分類と医学的分類、I C F の考え方</p> <p>（２）障害者福祉の基本的理念：ノーマライゼーションの概念</p>
<p>（２）障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 （１時間） 〈通学：１時間〉</p>	<p>（１）身体障害：視覚障害、聴覚、平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害</p> <p>（２）知的障害：知的障害</p> <p>（３）精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）：統合失調症・気分（感情）障害・依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害</p> <p>（４）その他の心身の機能障害</p>
<p>（３）家族の心理、かかわり支援の理解 （１時間）</p>	<p>家族への支援：障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減</p>

〈通学：1時間〉	
----------	--

9. こころとからだのしくみと生活支援技術（計 75 時間 通学：72 時間 通信：3 時間）

〈ねらい〉

- ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を取得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実践できる。
- ・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

〈評価ポイント〉

- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす・杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対処のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について列挙できる。

科目（細目）	具体的内容
（1）介護の基本的な考え方 （3時間） 〈通学：3時間〉	理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、法的根拠に基づく介護
（2）介護に関するこころのしくみの基礎的理解 （3時間） 〈通学：3時間〉	学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響
（3）介護に関するからだのしくみの基礎的理解 （6時間） 〈通学：3時間 通信：3時間〉	人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点
（4）生活と家事 （3時間） 〈通学：3時間〉	家事の生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援：生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観
（5）快適な居住環境整備と介護 （6時間）	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法：家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与

〈通学：6時間〉	
(6) 整容に関連したところ とからだのしくみと 自立に向けた介護 (6時間)	整容に関する基礎知識、整容の支援技術：身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果
〈通学：6時間〉	
(7) 移動・移乗に関連した ところとからだのしくみ と自立に向けた介護 (8時間)	移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援：利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の働きの理解、ボディメカニクスの基本原則、移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、移動介助（車いす、歩行器、つえ等）、褥瘡予防
〈通学：8時間〉	
(8) 食事に関連したところ とからだのしくみと 自立に向けた介護 (6時間)	食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援：食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備（時間・場所等）、食事に関した福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防
〈通学：6時間〉	
(9) 入浴、清潔保持に関連 したところとからだの しくみと自立に向けた 介護 (6時間)	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部洗浄（臥床状態での方法）、足浴・手浴・洗髪
〈通学：6時間〉	
(10) 排泄に関連した ところとからだのしくみ と自立に向けた介護 (6時間)	排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：排泄とは、身体面（生理面）での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法、便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）
〈通学：6時間〉	
(11) 睡眠に関連した ところとからだのしくみ と自立に向けた介護 (6時間)	睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠障害と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：安眠のための介護の工夫、環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、安楽な姿勢、褥瘡予防
〈通学：6時間〉	
(12) 死にゆく人に関連した ところとからだのしくみ と終末期介護 (4時間)	終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援：終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、臨終が近づいた時の兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性
〈通学：4時間〉	
(13) 介護過程の基礎的理解 (3時間)	介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ

〈通学：3時間〉	
(14) 総合生活支援技術演習 (9時間) 〈通学：9時間〉	(事例による展開) 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の取得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す：事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題、事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施

10. 振り返り (通学：4時間)	
〈ねらい〉 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。	
科目(細目)	具体的内容
(1) 振り返り (2時間) 〈通学：2時間〉	研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護について要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)
(2) 就業への備えと研修 終了後における継続的な 研修 (2時間) 〈通学：2時間〉	継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT、OJT)を紹介

(4) 通信課程の教材・指導方法・指導体制・課題

①研修に使用する教材

中央法規 介護職員初任者研修テキスト

② 介護のしごとの基礎 第3版

② 自立に向けた介護の実際 第2版

②指導方法・指導体制

1. 研修開始日に、すべての通信課題を受講者に配布する。
2. 通信課題の提出期限は、科目(細目)ごとに定める。
3. 提出期限は通学日程に合わせて設定し、原則持参による提出とする。
4. 各科目(細目)の通信課題指導講師が、各設問の正誤判定と、添削指導を行う。
5. 課題返却日は、科目(細目)ごとに通学日程に合わせて設定し、原則として手渡しにより添削後の返却日を行う。
6. 通学日において、休憩時間等を利用して、講義演習担当講師が質疑応答に対応する。

③通信課題の認定方法

1. 通信課程における全ての課題を提出し、担当講師による正誤判定と添削指導を受けた者について、通信課程修了と認定する。
2. ただし、習得度・理解度が著しく不足していると弊社が判断した場合は、課題の再提出または通学による補講を指示することがある。その場合、習得度・理解度が一定水準に達したと認められた時点で、通信課程修了と認定する。

④通信課題

提出回	科目の細目
第1回	2-1 人権と尊厳を支える介護

	2-2 自立に向けた介護
第2回	4-1 介護保険制度 4-3 障害福祉制度およびその他制度 5-1 介護におけるコミュニケーション 5-2 介護におけるチームのコミュニケーション
第3回	3-1 介護の役割、専門性と多職種連携 3-2 介護職の職業倫理 3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント 3-4 介護職の安全 6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常 6-2 高齢者と健康
第4回	9-3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解

3. 講師情報

講師名	略歴・現職	資格
辻田 順子	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職 ・看護専門学校教員 ・福祉系専門学校学科長 ・高校等における講師 ・介護職員養成研修非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・看護教員養成講習修了 ・介護教員養成講習修了
山本 順子	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職 ・看護専門学校教員 ・介護職員養成研修非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・看護教員養成講習修了
千 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職、生活指導員 ・福祉系専門学校講師 ・介護職員養成研修非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士 ・社会福祉士 ・介護支援専門員 ・介護教員養成講習修了
山本 朋子	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職 ・看護専門学校講師 ・介護職員養成研修非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・助産師 ・赤十字家庭看護法講師・赤十字幼児安全法講師資格
伊藤 里美	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・介護員養成研修講師 ・福祉系専門学校講師 ・福祉系短期大学準教授 ・介護職員養成研修非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・介護福祉士 ・社会福祉士 ・介護支援専門員 ・介護教員養成講習修了
和田 美登利	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職 ・看護専門学校講師 ・介護職員養成研修非常勤講師（現職） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・認定看護管理者教育課程修了

4. 実績情報

① 過去の研修実施回数＜介護職員初任者研修＞

◇富山県 ＜過去3年間＞

令和01年度：3回

令和02年度：4回

令和03年度：3回

② 過去の研修延べ人数＜介護職員初任者研修＞

◇富山県 ＜過去3年間＞

令和01年度：15名

令和02年度：18名

令和03年度：13名

5. 連絡先等

① 申し込み・資料請求先

株式会社グレート富山支店

富山県富山市本町3-25 富山本町ビル3F TEL076-443-9010

③ 法人、事業所の苦情対応者名・役職・連絡先

課長：太田真理子（富山支店）・TEL076-443-9010